

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成30年3月8日(2018.3.8)

【公開番号】特開2016-219294(P2016-219294A)

【公開日】平成28年12月22日(2016.12.22)

【年通号数】公開・登録公報2016-069

【出願番号】特願2015-104237(P2015-104237)

【国際特許分類】

H 0 1 R 13/11 (2006.01)

H 0 1 R 9/16 (2006.01)

H 0 1 R 12/51 (2011.01)

【F I】

H 0 1 R 13/11 3 0 2 A

H 0 1 R 9/16 1 0 2

H 0 1 R 12/51

【手続補正書】

【提出日】平成30年1月29日(2018.1.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

複数のコンタクトと、

前記複数のコンタクトをそれぞれ収容する複数の保持溝を有するハウジングと、を備え

、

前記複数の保持溝の各々は、第 1 方向へ延びる内壁を有し、

前記複数のコンタクトの各々は、固定部、接触腕部及び支持腕部を有し、

前記固定部は、前記複数の保持溝の対応する 1 つに固定され、

前記接触腕部及び前記支持腕部は、前記固定部から前記第 1 方向へ延び、かつ前記第 1 方向に直交する第 2 方向に互いに間隔を空けて配置され、

前記接触腕部は、接点を有し、かつ前記接点が前記第 2 方向へ移動するように弾性変形可能であり、

前記支持腕部は、少なくとも前記接点が前記支持腕部に近づくように前記接触腕部が弾性変形したときに、前記複数の保持溝の対応する 1 つの前記内壁に接触するコネクタ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

本発明は、第 1 のコネクタとして、

複数のコンタクトと、

前記複数のコンタクトをそれぞれ収容する複数の保持溝を有するハウジングと、を備え

、

前記複数の保持溝の各々は、第 1 方向へ延びる内壁を有し、

前記複数のコンタクトの各々は、固定部、接触腕部及び支持腕部を有し、

前記固定部は、前記複数の保持溝の対応する１つに固定され、

前記接触腕部及び前記支持腕部は、前記固定部から前記第１方向へ延び、かつ前記第１方向に直交する第２方向に互いに間隔を空けて配置され、

前記接触腕部は、接点を有し、かつ前記接点が前記第２方向へ移動するように弾性変形可能であり、

前記支持腕部は、少なくとも前記接点が前記支持腕部に近づくように前記接触腕部が弾性変形したときに、前記複数の保持溝の対応する１つの前記内壁に接触するコネクタを提供する。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００６１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００６１】

（第２の実施の形態）

第１の実施の形態において、コネクタ２０のコンタクト２１は、金属板を打ち抜き加工して形成されている。これに対して、本発明の第２の実施の形態によるコネクタは、図３１に示されるような金属線材からなるコンタクト２１Ａを用いる。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００６２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００６２】

図３１から理解されるように、本実施の形態によるコネクタに用いられるコンタクト２１Ａは、金属線材を曲げて形成されている。即ち、コンタクト２１Ａは、金属線材を曲げて形成されたコンタクトである。コンタクト２１Ａは、第１の実施の形態に用いられるコンタクト２１の外形に対応する外形を持っている。即ち、コンタクト２１Ａは、金属線材からなる接続端子部２１１Ａ、固定部２１２Ａ、接触腕部２１３Ａ、支持腕部２１４Ａを有している。固定部２１２Ａは、接触腕部２１３Ａ及び支持腕部２１４Ａにそれぞれ連続する２つの部分を有する。これら２つの部分の一方は端面２１５Ａを含み、他方は端面２１６Ａを含む。固定部２１２Ａを構成する２つの部分は、接続端子２１１Ａによって互いに連結され、これにより端面２１５Ａと端面２１６Ａとが所定の距離に維持される。また、接触腕部２１３Ａは、接点２１７Ａを有している。